

今年も暑くなる??orz. 早めの暑熱対策で事故防止!

「異常気象」続きの昨今、今のところ3か月予報では猛暑は予想されていませんが、それでも暑い季節がやってきます。暑熱対策を再確認、事故防止につとめましょう。

畜舎対策

- ① 畜舎内を整理・清掃し、風通しをよくする。
- ② よしずや寒冷紗、グリーンカーテンで直射日光を遮り、温度の上昇を抑える。
- ③ 畜舎の屋根に消石灰、断熱塗料等の塗布、散水を行い、舎内温度を低下させる。



家畜対策

- ① 嗜好性・栄養度の高い飼料を給与し、食欲と栄養を確保する。
- ② ルーメンアシドーシスの予防に重曹・塩(1:1を150~200g/日)を給与する。
- ③ 消耗するビタミンを補給(増給)する。
- ④ 換気扇・扇風機・ダクト送風などを活用、体感温度を低下させる。
- ⑤ 給水器の清掃をこまめに行い、常に新鮮・清潔な水が飲めるようにする。

牛ウイルス性・下痢粘膜病(BVD-MD)に注意しましょう

酪農生産性向上対策事業で実施した前期バルク乳検査で、BVD ウイルスの遺伝子が1戸で検出されました。幸い、個体検査では持続感染牛(PI牛)は確認されませんでした。ウイルスの農場内への侵入(一過性の感染)はあったものと考えられます。改めてBVD-MDについて再確認、予防対策をお願いします。

○ BVD-MDの特徴

- ☆ BVD ウイルスの感染により、呼吸器病や下痢などをおこす。
- ☆ 妊娠牛には異常産(流産や胎子奇形)や繁殖障害などをおこす。
- ☆ 多くは一過性で回復するが、妊娠牛が感染すると本病に特有のPI牛が産まれる場合があります、PI牛は大きな経済的損失を招く。

~PI牛とは・・・

- ☆ BVD ウイルスが胎齢約30~150日の時期の妊娠牛に感染すると、BVD ウイルスを外敵と認識しないPI牛として生まれる可能性がある。PI牛は、発育不良となったり、鼻汁や糞尿等に多量のウイルスを排出し続け、感染源となる。

○ BVD-MD 対策

- ☆ ワクチンを定期的に接種し、常に群全体の免疫力を維持する。
- ☆ 導入牛の隔離、消毒など日常の飼養衛生管理を徹底する。
- ☆ 未検査牛、導入牛等の検査や定期的にバルク乳の検査を行う。
- ☆ PI牛が確認されたら速やかに隔離・淘汰する。



~ワクチン等のお問い合わせ・ご相談はかかりつけの獣医さんまたは当所防疫課へ~